新課程教科書指導資料のご案内

●語句・文脈の解説と脚問・発問　高　精　明

241　教科書[p.257~p.259]

語句・文脈の解説と脚問・発問

257ページ

L1　花は盛りに　桜の花はその盛りのものだけを。「盛りに」は満開の状態を表す。「盛りに」は連用中止法で、「花は盛りに」と「月は隈なき」はともに「をのみ見るものかは」に係る。「青く、広い空」の「青く」「広い」がともに「空」に係るのと同じ構造である（→発問）。

なお、平安初期までは「花」といえば梅を指したが、それ以降は桜の花を指すようになった。

L1　月　月一般というのではなく、ここでは春の花に対し秋の月を指すと思われる。

L1　隈なきをのみ　曇りのないものだけを。「のみ」は限定の副助詞（→発問）。「隈なし」は、曇りがない。影がない。

L1　見るものかは　見るものであろうか、いや、そうではない。「かは」は反語を表す係助詞。「ものかは」で終助詞とする説もある。ここで否定しているのは「満開の桜や曇りのない月だけを見るもの」という考え方であり、「満開の桜や曇りのない月」まで否定しているのではない。それらの趣深さは認めた上で、それ以外の花や月にも趣があることを述べてゆくのである。

L1　雨に対ひて月を恋ひ　『類聚句題抄』に「対レ雨恋レ月」と題する源順の詩がある。雨を前にして見えない月を恋い慕うのである（→発問）。「恋ひ」は連用中止法で、「垂れこめて春の行方知らぬ」とともに「も」に係る。

『類聚句題抄』は、一巻、漢詩集。編者未詳。別称を『類題古詩』という。平安後期成立。句題によって賦した詩の対句の部分だけを摘出類聚したものである。

L1　垂れこめて　簾を垂れて（家の中に）引きこもって。『古今和歌集』に「垂れこめて春の行方も知らぬ間に待ちし桜も移ろひにけ

《板書例》

花は盛りなるをのみ見るものかは
月は隈なきをのみ見るものかは
↓
花は盛りに、月は隈なきを[のみ]（限定）
見るものかは（反語）
満開の桜や曇りのない月　だけを　見るものだろうか、いやそうではない。

脚問・発問

257ページ

問　「花は盛りに」と「月は隈なき」（1行）とはどういう関係にあるか。

答　どちらも「をのみ見るものかは」に係る並列の関係。

問　「花は盛りに、月は隈なきをのみ見るものかは」（1行）の「のみ」がある場合とない場合とで、解釈はどのように変わるか。

答　ある場合は、満開の桜や曇りのない月の価値は認めるがそれだけではない、という意になり、ない場合は、満開の桜や曇りのない月の価値は認めない、という意になる。

（解説）　「のみ」は限定の副助詞で、その有無によって「……だけを見るものではない」「……を見るものではない」と解釈が大きく変わる。

問　「雨に対ひて月を恋ひ」（1行）とはどういうことか。

答　雨の降る夜は月が見えないが、その見えない月を想像して恋い慕う、ということ。

問　「なほあはれに情け深し」（2行）とあるが、一般的な見方はどういう見方で、兼好の考え方はどういうものか。

答　一般的には満開の桜、隈なき月を愛でる。

243　教科書[p.257~p.259]

L5　月の傾く　月が（西に）傾く。月が中天を過ぎ沈んでゆく。

L6　習ひ　ならわし。習慣。従来からそのようなものだと認識されていること。

L6　さること　もっともなこと。「さる」は副詞「さ」にラ変動詞「あり」の連体形「ある」がついた「さある」から転成した連体詞。「さ」に「あり」がついたラ変複合動詞「さり」の連体形とする説もある。

L6　かたくなる人　ものの情趣を解さない人。教養のない人。（→脚問）

L7　言ふめる　言うようである。「める」は婉曲の助動詞「めり」の連体形。

L8　よろづのことも　どんなことも。

L8　をかしけれ　「をかし」は、趣がある。「あはれなり」がしみじみと深く心に受け止めた感動や、「いとしい」「気の毒だ」などという気持ちを表すのに対し、「をかし」は、対象を客観的、理知的、または好奇心をもって見て感じられる興趣である。

L8　男女の情け　男女の恋。「情け」は男女間の情愛、愛情。

L8　ひとへに　ひたすら。

L9　逢ひ見る　逢って契りを結ぶ。

L9　をば　「を」は格助詞、「ば」は係助詞、「は」のついた「をは」からの変化。「を」で受ける語を特に強調する。

L9　逢はでやみにし憂さ　逢わないで終わってしまったつらさ。「不遇恋」の詞書をもつものに「思ふことありその海のうつせ貝逢

コラム　兼好の主張

前出の詞書をもつ歌があることや、「花の散り、月の傾くを慕ふ習ひは、さること」と述べていることは、それらにも趣を感じた伝統があったことを示している。「初め終はりこそをかしけれ」も兼好の新発見であるわけではなく、満開の桜や曇りのない月といったものだけに価値をおく世情を憂えて、これまでにも注目されてきた「初め終はり」にはより深い趣があるということを主張しているのである。

コラム　「恋について」

『兼好法師家集』には「稀逢恋、逢後忍恋、恨別恋、恨絶恋、絶切恋、絶不聞恋、不逢恋、忍絶恋」などの題詠があり、「ひとへに逢ひ見るをば言ふものかは」という考えが表れているといえる。

《板書例》

桜や月の趣
・雨の日の月、家の中で思う桜
・咲きそうな梢、散ったあとの庭
・見ることのできなかった桜（…詞書）
・散る桜、沈む月（…ならわし）
＝
「盛り」の前後・見ないで想像するもの
→
無風流な人は興味を示さない

問　第一段落の対句的表現を抜き出せ。

答　「花は盛りに」―「月は隈なき」
「雨に対ひて月を恋ひ」―「垂れこめて春の行方知らぬ」
「咲きぬべきほどの梢」―「散りしをれたる庭」
「花の散り」―「月の傾く」

問　「あだなる契りをかこち」（9行）とあるが、なぜこういう結果になったと考えられるか。

答　相手の心が変わってしまったから。

（解説）　「あだなり」には「はかない・不誠実だ・いいかげんだ」などの意がある。

指導資料

※ここでご紹介するものは、編集中のものもございますので、内容や仕様、デザインが予告なく変更されることがあります。どうかご了承ください。

指導資料　教材研究に役立つ資料・解説と、授業で使える資料を豊富にそろえています。

〈高等学校・精選シリーズ〉

●「単元の解説」では、教材ごとのねらいを示し、教科書全体における位置づけについても解説しています。

●「教材の研究」（現代文）では、筆者（作者）や出典の解説に加え、要旨（大意）の例を示しています。小説教材には、「主題」についての考えを示した項目を設けました。また、教材文の筆者（作者）や教材ごとに、表現の特色についても解説しています。

●「教材の研究」（古典）では、作品について「成立」「表現上の特色」「文学史的位置」などの項目を設けて解説し、作者（筆者）についても伝記的な内容や業績などを記しています。「品詞分解・口語訳」（古文）は、教材本文を総ルビで掲載して品詞分解を示し、原則として一文ごとに番号を振って口語訳と対応させました。「書き下し文・口語訳」（漢文）は、総ルビの書き下し文と口語訳を対応させました。

●現代文・古典ともに、「出典」で小・中学校の国語教科書についての関連情報も適宜示しています。（国語総合のみ）

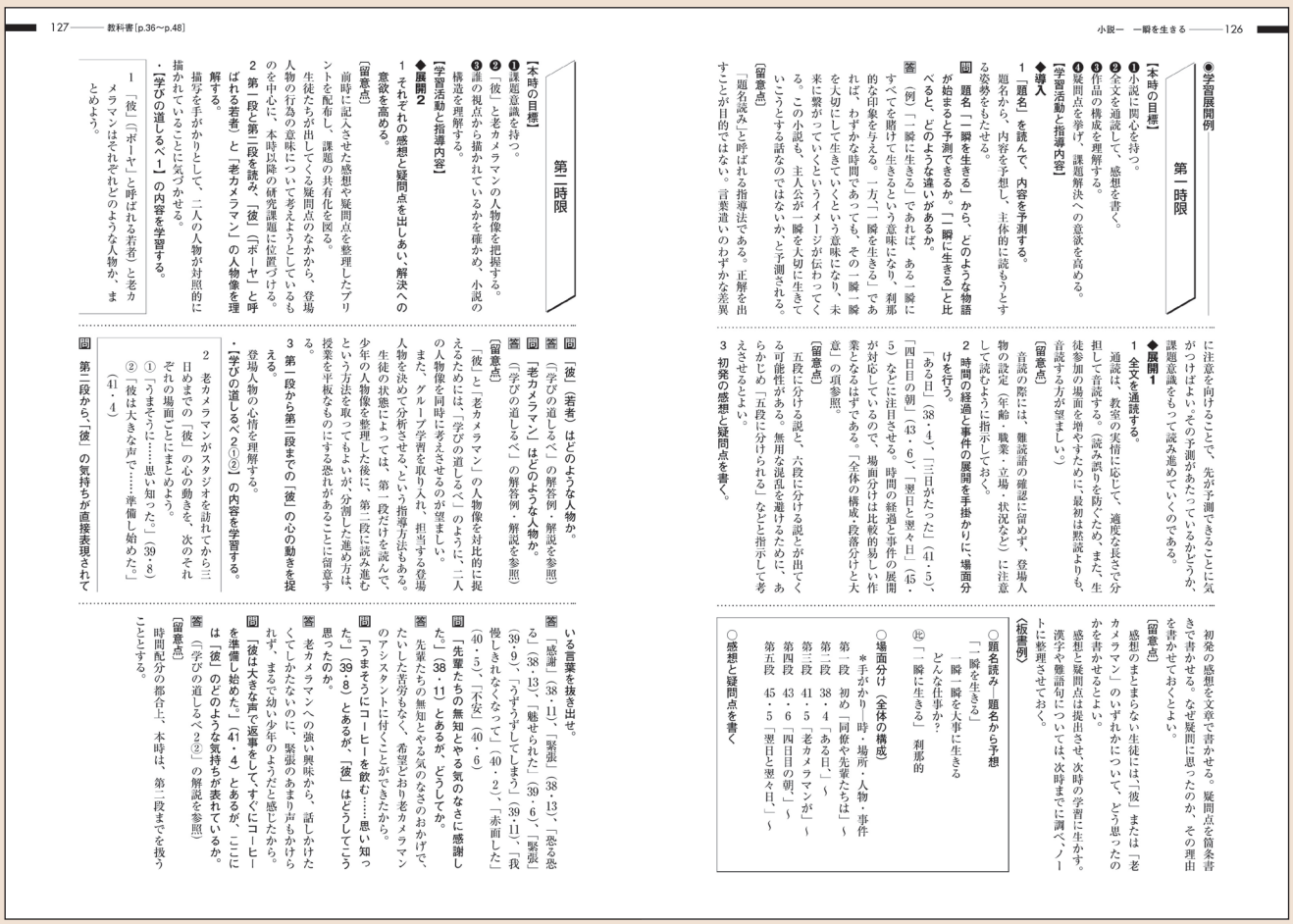
●「語句・文脈の解説」では、教科書の「語句」欄の語句や重要な概念、固有名詞などについて解説したほか、読解上のポイントとなる文についても解説しています。解説の内容が「脚問」「発問」に関連する場合には、適宜リンクを示しました。また、古典では「鑑賞」として、採録教材の主題や関連章段への言及など、教材の理解を深める内容を掲載しています。

●「脚問・発問」は、授業の場での実際の問答を想定し、豊富に設定しました。解説で適宜、発問の意図や指導上の留意点などを示しています。

●「学習の手引き」は、教室の実態に合わせて指導ができるよう、重要な問いについては解答例を複数示しています。現代文の「漢字」には、教科書本文の漢字や語句を中心とした練習問題を複数題掲載しています。

●「研究・発展」の「参考文献」のリストには、教材研究や授業研究のための参考図書と、「生徒のためのブックガイド」を掲載しています。

●学習展開例 明



小説一　一瞬を生きる——126

◉学習展開例

第一時限

【本時の目標】
❶小説に関心を持つ。
❷全文を通読して、感想を書く。
❸作品の構成を理解する。
❹疑問点を挙げ、課題解決への意欲を高める。

【学習活動と指導内容】
◆導入
1「題名」を読んで、内容を予測する。
題名から、内容を予想し、主体的に読もうとする姿勢をもたせる。
問 題名「一瞬を生きる」から、どのような物語が始まると予測できるか。「一瞬に生きる」と比べると、どのような違いがあるか。
答（例）「一瞬に生きる」であれば、ある一瞬にすべてを賭けて生きるという意味になり、刹那的な印象を与える。一方、「一瞬を生きる」であれば、わずかな時間であっても、その一瞬一瞬を大切にして生きていくという意味になり、未来に繋がっていくというイメージが伝わってくる。この小説も、主人公が一瞬を大切に生きていこうとする話なのではないか、と予測される。
〔留意点〕
「題名読み」と呼ばれる指導法である。正解を出すことが目的ではない。言葉遣いのわずかな差異に注意を向けることで、先が予測できることに気がつけばよい。その予測があたっているかとうか、課題意識をもって読み進めていくのである。

◆展開1
1 全文を通読する。
通読は、教室の実情に応じて、適度な長さで分担して音読する。（読み誤りを防ぐため、また、生徒参加の場面を増やすために、最初は黙読よりも、音読する方が望ましい。）
〔留意点〕
音読の際には、難読語の確認に留めず、登場人物の設定（年齢・職業・立場・状況など）に注意して読むように指示しておく。
2 時間の経過と事件の展開を手掛かりに、場面分けを行う。
「ある日」（38・4）、「三日がたった」（41・5）、「四日目の朝」（43・6）、「翌日と翌々日」（45・5）などに注目させる。時間の経過と事件の展開が対応しているので、場面分けは比較的易しい作業となるはずである。「全体の構成」段落分けと大意」の項参照。
〔留意点〕
五段に分ける説と、六段に分ける説とが出てくる可能性がある。無用な混乱を避けるために、あらかじめ「五段に分けられる」などと指示して考えさせるとよい。
3 初発の感想と疑問点を書く。
初発の感想を文章で書かせる。疑問点を箇条書きで書かせる。なぜ疑問に思ったのか、その理由を書かせておくとよい。
〔留意点〕
感想のまとまらない生徒には、「彼」または「老カメラマン」のいずれかについて、どう思ったのかを書かせるとよい。
感想と疑問点は提出させ、次時の学習に生かす。
漢字や難語句については、次時までに調べ、ノートに整理させておく。

〈板書例〉
○題名読み―題名から予想
「一瞬を生きる」
一瞬一瞬を大事に生きる
どんな仕事か？
㋐「一瞬に生きる」　刹那的
○場面分け（全体の構成）
＊手がかり―時・場所・人物・事件
第一段　初め「同僚や先輩たちは」～
第二段　38・4「ある日」～
第三段　41・5「老カメラマンが」～
第四段　43・6「四日目の朝」～
第五段　45・5「翌日と翌々日」～
○感想と疑問点を書く

第二時限

【本時の目標】
❶課題意識を持つ。
❷「彼」と老カメラマンの人物像を把握する。
❸話の視点から描かれているかを確かめ、小説の構造を理解する。

【学習活動と指導内容】
◆展開2
1 それぞれの感想と疑問点を出し合い、解決への意欲を高める。
〔留意点〕
前時に記入させた感想や疑問点を整理したプリントを配布し、課題の共有化を図る。
生徒たちが出してくる疑問点のなかから、登場人物の行為の意味について考えようとしているものを中心に、本時以降の研究課題に位置づける。
2 第一段と第二段を読み、「彼」（「ボーヤ」と呼ばれる若者）と「老カメラマン」の人物像を理解する。
描写を手がかりとして、二人の人物が対照的に描かれていることに気づかせる。
・【学びの道しるべ 1】の内容を学習する。
1「彼」（「ボーヤ」と呼ばれる若者）と老カメラマンはそれぞれどのような人物か、まとめよう。
問「彼（若者）」はどのような人物か。
（「学びの道しるべ」の解答例・解説を参照）
問「老カメラマン」はどのような人物か。
（「学びの道しるべ」の解答例・解説を参照）
〔留意点〕
「彼」と「老カメラマン」の人物像を対比的に捉えるためには、「学びの道しるべ」のように、二人の人物像を同時に考えさせるのが望ましい。
また、グループ学習を取り入れ、担当する登場人物を決めて分析させる、という指導方法もある。生徒の状態によっては、第一段だけを読んで、少年の人物像を整理した後に、第二段に読み進むという方法を取ってもよいが、分割した進め方は、授業を平板なものにする恐れがあることに留意する。
3 第一段から第二段までの「彼」の心の動きを捉える。
登場人物の心情を理解する。
・【学びの道しるべ 2①②】の内容を学習する。
2 老カメラマンがスタジオを訪れてから三日めまでの「彼」の心の動きを、次のそれぞれの場面ごとにまとめよう。
①「うまそうに……思い知った」（39・8）
②「彼は大きな声で……準備し始めた」（41・4）
問 第二段から、「彼」の気持ちが直接表現されている言葉を抜き出せ。
答「感謝」（38・11）、「緊張」（38・13）、「恐る恐る」（38・13）、「魅せられた」（39・6）、「緊張」（39・9）、「うずうずしてしまう」（39・11）、「我慢しきれなくなって」（40・2）、「赤面した」（40・5）、「不安」（40・6）
問「先輩たちの無知とやる気のなさに感謝した」（38・11）とあるが、どうしてか。
答 先輩たちの無知とやる気のなさのおかげで、たいした苦労もなく、希望どおり老カメラマンのアシスタントに付くことができたから。
問「うまそうにコーヒーを飲む……思い知った」（39・8）とあるが、「彼」はどうしてこう思ったのか。
答 老カメラマンへの強い興味から、話しかけたくてしかたないのに、緊張のあまり声もかけられず、まるで幼い少年のようだと感じたから。
問「彼は大きな声で返事をして、すぐにコーヒーを準備し始めた」（41・4）とあるが、ここには「彼」のどのような気持ちが表れているか。
答（「学びの道しるべ 2②」の解説を参照）
〔留意点〕
時間配分の都合上、本時は、第二段までを扱うこととする。

〈明解シリーズ〉

●「教材採録の意図」では、各教材を採録したねらいや、指導する際のポイントなどを示しています。

●「教材文の概要」（現代文）では、筆者（作者）や出典の解説に加え、要旨（大意）の例を示しています。小説教材には、「主題」についての考えを示した「『主題』についての考察」という項目を設けました。また、教材ごとに文体、修辞など表現上の特色も解説しています。

●「教材文の概要」（古典）では、作品・作者（筆者）について「成立」「内容・構成」「文学史上の位置」「作者」などの項目を設けて解説しました。

●現代文・古典ともに、小・中学校の国語教科書についての関連情報を適宜示しています。（国語総合のみ）

●「学習展開例」として、時間ごとの学習活動と指導内容を、発問例・板書例を取り入れて具体的に示しています。また、「生徒のための参考資料」として、発展的に読んだり比べ読みしたりできる資料を収録しています。

●「品詞分解と通釈」（古文）は、教材本文を総ルビで掲載して品詞分解を示し、原則として一文ごとに番号を振って通釈と対応させました。「書き下し文と通釈」（漢文）では、総ルビの書き下し文と口語訳を対応させました。

●「語句・文脈の解説」では、教科書の「語句」欄の語句や固有名詞などについて解説したほか、読解上のポイントとなる文についても取りあげ、解説しています。発問は、授業の場での実際の問答を想定し、豊富に設定しました。

●「学びの道しるべ（学習の手引き）」は、適宜設問のねらいを示した上で、解答・解説を記しています。

●「研究・発展」では、参考作品・参考資料などを掲載しています。現代文は、筆者（作者）・作品についても解説しています。「参考文献」のリストには、教材研究や授業研究のための参考図書を掲載しました。

指導資料付属資料

定期考査の参考になる問題集と授業や定期考査、受験対策などで使えるワークシートなどをご用意しています。

〈高等学校・精選シリーズ〉付属DVD-ROM

※『高等学 校国語総合 古典編』はCD-ROM

●評価問題集 ＊
定期考査などに使える問題を、基礎・標準・発展の三段階で収録しています。

●実力問題集 ＊
教材文と同著者の別作品や、別著者の同テーマの文章などを素材にした、入試対応の実力問題を収録。現代文・古典ともに、過去の入試問題を参考にして、独自に作成しました。

●補充教材集 ＊
教材に関連する資料や、発展的に読むことのできる作品、表現活動のためのワークシート、古典文法のワークシートなどを収録しています。

●教科書原文
教科書教材の本文データです。

●基本テスト
短時間で基礎を養う小テストです。漢字・語句・古典文法・漢文句法などの問題で構成。教材ごとに1～2本収録。

●発問例集
指導資料「脚問・発問」に掲載している授業の流れにあわせた発問例をデータで収録。

●構成・内容理解シート
教材文の構成を図解し、空欄を補充することで、教材文の要点をおさえることができるシートです。予習・復習に使えます。

●語句・漢字学習シート
現代文・古文教材の「語句」欄の語句と、漢文教材の学習に役立つ漢字について学習するためのシートです。

●古文品詞分解シート

●漢文書き下し文シート

●古典口語訳（古文・漢文）シート

●学習課題ノートデータ
教科書準拠の「学習課題ノート」の内容を、自由に加工できるデータで収録します。

※データは、収録内容に応じて、一太郎、WORD、PDF、テスト問題エディタ（60ページ参照）の形式で提供します。
※『＊』のものは国語総合のみ冊子が付属します。

〈明解シリーズ〉付属DVD-ROM

●教科書原文
教科書教材の本文データです。それぞれ、ルビなし、教科書ルビ、中学配当ルビ、総ルビの4種類をご用意しています。

●評価問題
定期考査などに使える問題を、教材ごとに3～6本収録します。解答例・解説付きです。

●補充学習材
現代文は指導資料の中の「生徒のための参考資料を、古典は教科書教材に関連して扱える作品を、口語訳、書き下し文とともに収録します。

●基本テスト
短時間で基礎を養う小テストです。漢字・語句・古典文法・漢文句法などの問題で構成。教材ごとに1～2本収録。

●発問例集
指導資料「脚問・発問」に掲載している授業の流れにあわせた発問例をデータで収録。

●学びの道しるべシート
教科書の各教材の「学びの道しるべ」の答えを書き込むシートです。

●語句・漢字シート
現代文教材の「語句・漢字」問題の答えを書き込むシートです。解答例付き。

●本文語句・本文漢字シート
現代文・古文の「語句」欄の語句と、現代文の「漢字」欄の漢字を学習するためのシートです。

●構成・内容理解シート
教材文の構成を図解し、空欄を補充することで教材文の要点をおさえることができます。予習・復習に使えます。

●古文品詞分解シート

●表現活動シート
表現教材の学習活動に即したワークシートです。

●学習課題ノート
教科書準拠の「学習課題ノート」の内容を、自由に加工できるデータで収録します。

※データは、収録内容に応じて、一太郎、WORD、PDF、テスト問題エディタ（60ページ参照）の形式で提供します。

●実力問題 高 精

実力問題１（羅生門）

〔　〕次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

（遠洋航海中の軍艦で盗難事件が発生し、「奈良島」という水兵の持ち物から盗品が発見された。「私」は石炭庫の入口に出ている人間の上半身を見つけたが、顔ははっきり見えなかった。）

直覚的に、私は、それを、奈良島だと思いました。そうだとすれば、勿論、自殺をするつもりで、石炭庫へはいろうと云うのです。

私は、異常な興奮を感じました。体中の血が躍るような、何とも云いようのない、愉快な昂奮です。銃を手にして、待っていた猟師が、獲物の来るのを見た時のような心もちとでも、云いましょうか。私は、殆、夢中で、その男にとびかかりました。そうして、猟犬よりもすばやく、両手で、その男の肩をしっかり、上からおさえました。

「奈良島。」

叱るとも、罵るともつかずに、こう云った私の声は、妙に上ずって、顫えていました。それが、実際、犯人の奈良島だった事は云うまでもありません。

「………」

奈良島は私の手をふり離すでもなく、上半身を積入口から出したまま、静に、私の顔を見上げました。[1]「静に」と云ったのでは、云い足りません。ある丈の力を出しきって、しかも静でなければならない「静に」です。余裕のない、せっぱつまった、云わば半、吹き折られた帆桁が、風のすぎた後で、僅かに残っている力をたよりに、元の位置に返ろうとする、あの止むを得ない「静に」です。私は、無意識ながら予期していた抵抗がなかったので、或不満に似た感情を抱きながら、しかもその為に、一層、いらいらした腹立たしさを感じながら、黙って、その「静に」もたげた顔を見下しました。

私は、あんな顔を、二度と見た事はありません。[2]悪魔でも、一目見たら、泣くかと思うような顔なのです。こう云っても、実際、それを見ないあなたには、とても、想像がつきますまい。私は、あなたに、あの涙ぐんでいる眼を、お話しする事は、出来るつもりです。あの急に不随意筋に変ったような、口角の筋肉の痙攣も、或は、察して頂く事が出来るかも知れません。それから、あの汗ばんだ、色の悪い顔も、それだけなら、容易に、説明が出来ましょう。が、それらのすべてから来る、恐ろしい表情は、どんな小説家も、書く事は出来ません。私は、小説をお書きになるあなたの前でも、安心して、これだけの事は、云いきれます。私はその表情が、[3]私の心にある何物かを、稲妻のように、たゝき壊したのを感じました。それ程、この信号兵の顔が、私に、強いショックを与えたのです。

「貴様は何をしようとしているのだ。」

私は、機械的にこう云いました。すると、その「貴様」が、気のせいか、私自身を指している様に、聞えるのです。「貴様は何をしようとしているのだ。」――こう訊ねられたら、私は何と答える事が出来るのでしょう。「己は、この男を罪人にしようとしているのだ。」誰が安んじて、そう答えられます。誰が、この顔を見てそんな真似が出来ます。こう書くと、長い間の事のようですが、実際は、殆、一刹那の中に、[4]こんな自責が、私の心に閃きました。丁度、その時です。[5]「面目ございません」――こう云う語が、かすかながら鋭く、私の耳にはいったのは。

[6]あなたなら、私自身の心が、私に云ったように聞えたとでも、形容なさるのでしょう。私は、唯、その語が、針を打ったように、私の神経へひゞくのを感じました。まったく、その時の私の心もちは、奈良島と一しょに「面目ございません」と云いながら、私たちより大きい、何物かの前に、首がさげたかったのです。私は、いつか、奈良島の肩をおさえていた手をはなして、私自身が捕らえられた犯人のように、ぼんやり石炭庫の前に立っていました。

「猿」芥川龍之介『芥川龍之介小説集　四』（一九八七年・岩波書店）所収

問一　傍線１「『静に』」と云ったのでは、云い足りません」とあるが、奈良島はどんな様子だったのか。簡潔に答えよ。

●評価問題 高 精 明

晏子之御

〔　〕次の文章を読んで、後の問いに答えよ。【基礎問題】

晏子為斉相出。其御之妻、従[a]門間而闚其夫。其夫為相御、擁大蓋、策駟馬、[I]意気揚揚、甚自得也。既而帰。其妻請[1]去。夫問其[b]故。妻曰、晏子長不満六尺、身相斉国、名顕諸侯。今者妾観其出、志念深矣。常有以自下者。今、[2]子長八尺、乃為人僕御。然子之意、[3]自以為足。妾是以求去也。其後、夫自[II]抑損。晏子怪而問之。御以実対。晏子薦以為大夫。

問一　二重傍線ａの読みを、送り仮名も含めて全て平仮名で答えよ。

問二　波線Ⅰ・Ⅱの意味として最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

Ⅰ　①　とても元気に　②　とても興奮して　③　とても積極的に　④　とても得意そうに

Ⅱ　①　ゆっくりと振る舞う　②　慎重に振る舞う　③　控え目に振る舞う　④　穏やかに振る舞う

問三　二重傍線ｂの読みとして最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

①　わけ　②　もと　③　いにしえ　④　ゆえ

問四　傍線１について、妻はどこから「去らん」としたのか。

問五　傍線２「子」とは誰を指すのか。

問六　傍線３の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

①　満足だと思う。　②　気持ちに余裕がある。

③　十分に足りている。　④　さらに足す必要がある。

●補充教材 高 精 明

◆羅生門（芥川龍之介）１

『羅生門』のもとになった古典

『羅生門』は、芥川龍之介が二十三歳のときの作である。初出は、大正四（一九一五）年十一月刊行の「帝国文学」で、のちに単行本としても出版された。「帝国文学」は東京大学の文科関係の機関誌であり、当時既に二十年の歴史を持っていた。

芥川龍之介が古典に取材した作品（『鼻』『芋粥』など。「王朝物」と呼ばれる）をいくつも遺したことは知られているが、その第一作目が『羅生門』であった。『羅生門』は、愛読していた『今昔物語集』にもとづいて書かれた。『羅生門』の大筋は、『今昔物語集』の巻二十九第十八「羅城門登上層見死人盗人語（らしやうもんのうはこしにのぼりてしにんをみたるぬすびとのこと）」に依拠しているが、細部にあたる死人の女の生前の行状などは、巻三十一第三十一「太刀帯陣賣魚嫗語（たてはきのぢんにうをうるおうなのこと）」から要素を引き入れている。次は、『羅生門』の大筋に対応する『今昔物語集』巻二十九第十八の原文である。比べて読むと、芥川龍之介が、原作が伝える闇の時代のおぞましさとそこに生きる人間たちのしたたかさをふまえつつ、近代小説らしい主題の下に情景や人物像や出来事を膨らませ、緻密に構成し直していることがわかる。

《羅城門登上・見死人盗人語第十八》

今は昔、攝津の國邊より盗せむが爲に京に上ける男の、日の未だ暮ざりければ、羅城門の下に立隠れて立てりけるに、朱雀の方に人重り行ければ、人の靜まるまでと思て門の下に待立てりけるに、山城の方より人共の數來たる音のしければ、其れに不レ見えじと思て、門の上・に和ら掻つき登たりけるに、見れば火髴に燃したり、盗人恠と思て連司より臨ければ、若き女の死て臥たる有り、其の枕上に火を燃して、年極く老たる嫗の白髪白きが、其の死人の枕上に居て、死人の髪をかなぐり抜き取る也けり、盗人此れを見るに心も不レ得ねば、此れは若し鬼にや有らむと思て、怖けれども若し死人にてもぞ有る、恐して試むとて思て、和ら戸を開て刀を抜て、己はと云て走寄ければ、嫗手迷ひをして手を摺て迷へば、盗人此は何ぞの嫗の此はし居たるぞと問ければ、嫗「己が主にて御ましつる人の、失給へるを繚ふ人の無ければ、此て置奉たる也、其の御髪の長に餘て長ければ、其を抜取て鬘にせむとて抜く也、助け給へ」と云ければ、盗人死人の・たる衣と嫗の・たる衣と抜取てある髪とを奪取て、下走て逃て去にけり、然て其の上の・には死人の骸ぞ多かりける、死たる人の葬など否不レ爲をば此の門の上にぞ置ける、此の事は其の盗人の人に語けるを聞繼て、此く語り傳へたるとや。

【大意】

今は昔のことになったが、摂津の国の近辺から盗みを働くために京へ上ってきた男が、日がまだ暮れないので、羅城門の下で身を隠して立っていた。朱雀の方の人通りが激しいので人気がなくなるまで動くのはよそうと門の下でそのまま立っていると、山城の方から大勢来る音がした。見つかるまいと思い門の上層部にかきついて上がり、上から見ていると、火をほのかにともしている。盗人が不思議に思って連子窓から覗いていると、若い女の死んで横たわった遺骸のそばに火を灯し、白髪頭の老婆が、その枕もとで死人の髪を抜き取っているのであった。盗人はこれを見て不審に思ったが、老婆は鬼かもしれない、恐ろしいことだが死人かもしれない、脅してみようと思って、そろそろと戸を開け刀を抜いて、「おまえは何をしているのだ」と言いながら走り寄ると、老婆は手をすり合わせて狼狽する。盗人の問いに、老婆が答えるには、「わたしの主人であった方が亡くなりましたが、弔いの手配をする者もないため、ここに置かせていただいたのです。髪がたいそう長い方だったので鬘にしようと思い、抜いていたのです。お助けあれ。」と言うので、盗人は、死人の女の衣と、老婆の着ていた衣と、抜いてあった髪を奪い取って、門の上から下りて逃げた。このように羅城門の上層部には棄てられた死人の遺骸が多かった。死んだ人の弔いができないため、この門の上に放置するのである。この話は、その盗人が人に話したのを聞き継ぎ、このように語り伝えているのである。

指導資料

●構成・内容理解シート 高 精 明

灰色の月

● 次の空欄を文章中の語句で補え。

日時 昭和㋐〔　　〕年㋑〔　　〕月㋒〔　　〕日
灰色の月が日本橋側の㋓〔　　〕頃を照らす午後㋔〔　　〕駅で電車に乗り、
場面 「私」が㋕〔　　〕駅で降りるまでの間

皆、少年工のことを㋖〔　　〕と思い、
「私」も同じ気持ちをもつ。
→ ㋗〔　　〕気持ちのまま㋘〔　　〕駅で電車を降りる。

㋙「どこまで行くんだ。」
㋚「㋛〔　　〕へ行くんだ。」

㋜「どこから乗ったんだ。」
㋝「㋞〔　　〕から乗った。」

㋟「ひと回りしちゃったよ。」
㋠「㋡〔　　〕」

少年工を気にかける乗客たち

池袋
新宿
渋谷
上野
東京
有楽町
新橋
浜松町
品川

重心を失った少年工の体を肩で突き返した「私」
→自分の気持ちを㋢〔　　〕動作

連れ…上野回りに乗る
「私」…品川回りに乗る

腰掛けた「私」の左
→㋣〔　　〕らしい㋤〔　　〕歳の子ども
・「私」の方を背にして座る。
・㋥〔　　〕はつぶり㋦〔　　〕は開けたまま。
・㋧〔　　〕的に上体を前後に大きく揺する。
⇨㋨〔　　〕なので間をあけて腰掛ける。

若者と男の会話
→気持ちよく思う。人の気持ちもだいぶ㋩〔　　〕と思う。

少年工は依然体を大きく揺する。

会社員たちが少年工を笑う。
→車内に㋪〔　　〕な空気。

「(餓死の) 一歩手前ですよ。」
→肩の㋫〔　　〕た工員服・戦闘帽のひさしの下の汚れた㋬〔　　〕首筋
→子どもらしく誰かに甘える様子

●古典品詞分解シート 高 精 明

古文入門

児のそら寝

今は　係助（区別）　昔、比叡の山に　格助（場所）　児あり　動（ラ変・連用）　助動（過去・終止）　けり。

僧たち、宵の　格助（時間）　つれづれに、　感動　「いざ、かいもちひ

せむ。」　動（サ変・未然）　と　助動（意志・終止）　言ひ　格助（引用）　動（ハ四・連用）　ける　助動（過去・連体）

を、　格助（対象）　こ　代名　の　格助（体修）　児、心寄せに　格助（状態）　聞き　動（カ四・連用）

けり。　助動（過去・終止）　さりとて、　接続　し出だす　動（サ四・未然）　む　助動（婉曲・連体）

を　格助（対象）　待ち　動（タ四・連用）　て　接助（単接）　寝　動（ナ下二・未然）

ざら　助動（打消・未然）　む　助動（婉曲・連体）　も、　係助（強意）　わろかり　形（ク・連用）

な　助動（強意・未然）　む　助動（推量・終止）　と　格助（引用）　思ひ　動（ハ四・連用）

て、　接助（単接）　片方に　格助（場所）　寄り　動（ラ四・連用）　て、　接助（単接）　寝　動（ナ下二・連用）

たる　助動（存続・連体）　由にて、　格助（状態）　出で来る　動（カ変・連体）　を　格助（対象）

待ち　動（タ四・連用）　ける　助動（過去・連体）　に、　接助（順接・確定）　すでに　副

し出だし　動（サ四・連用）　たる　助動（完了・連体）　さま　格助（状態）　にて、　動（ハ四・連用）　ひしめき合ひ

たり。　助動（存続・終止）

こ　代名　の　格助（体修）　児、定めて　副　おどろかさ　動（サ四・未然）　むず　助動（推量・終止）

らむ　助動（現在推量・終止）　と　格助（引用）　待ちゐ　動（ワ上一・連用）　たる　助動（存続・連体）

●学習課題ノート 高 精 明

評論一　水の東西　山崎正和【教科書 P. 13〜P. 17】

全体の構成を理解しよう

日本の「鹿おどし」と西洋の「噴水」の対比に注目しながら、次の空欄を本文中の語句で補え。

◎流れる水と噴き上げる水
「鹿おどし」は流れるものをせき止めることによって、かえって流れてやまないものの存在を強調している。「鹿おどし」が単純なリズムを無限に繰り返したり、［①］を感じさせる。

◎時間的な水と空間的な水
欧米にはいたるところに噴水があった。その大きくて立派な［③］に静止しているように思われた。

◎見えない水と目に見える水
日本の伝統には噴水がなかった。それは気候や歴史的事情にもよるのであろうが、日本人の場合、水は［⑤］というよりも、［⑥］を美しいと感じていたからであろう。「行雲流水」という思想は、流れる水のような［⑦］感性に支えられていたのである。

◎鹿おどしの現すもの
日本人は、［⑧］を大切にするので、もはや水を見る必要さえない。「鹿おどし」は、日本人の［⑨］が行きついた最高の境地を表す仕掛けと言える。

漢字・語句を確認しよう

一　次の漢字の読みを記せ。

①緩やか（　　）　②静寂（　　）　③素朴（　　）
④凝らす（　　）　⑤壮大（　　）　⑥乏しい（　　）
⑦間隙（　　）　⑧極致（　　）

指導資料

『教師用教科書』（指導資料に同梱・別売品もあり）
教科書の紙面に、文章構造や要約、口語訳や文法情報、「学習の手引き」の解答例などを青地で刷り込んだ冊子です。

評論 一

水の東西

山崎正和（やまざきまさかず）

要旨 「鹿おどし」は、日本人に水や時の流れといった流れてやまないものの存在を強調する仕掛けである。一方、噴水に見られるように、西洋では水は空間的な目に見えるものとして捉えられ、造形の対象となってきた。日本人は「行雲流水」という言葉に見られる、いっさいを自然に任せるという思想をもっているが、その思想は、形がなく自然に流れゆくものを好ましく感じるという日本人独特の感性に支えられているものである。

日本の「鹿おどし」と西洋の「噴水」の対比

◎第一段（時間を流れる水）

「鹿おどし」[1]が動いているのを見ると、その[好ましさ]の中に、なんとなく人生のけだるさのようなものを感じることがある。かわいらしい竹のシーソーの一端に水受けがついていて、それに筧[2]の水が少しずつたまる。静かに緊張が高まりながら、やがて水受けがいっぱいになると、シーソーはぐらりと傾いて水をこぼす。緊張が一気にとけて水受けが跳ね上がる時、竹が石をたたいて、こおんと、くぐもった優しい音をたてるのである。

見ていると、単純な、緩やかなリズムが、無限にいつまでも繰り返される。緊張が高まり、それが一気にほどけ、しかし何事も起こらない[徒労]がまた一から始められる。ただ、曇った音響が時を刻んで、庭の静寂と時間の長さをいやがうえにも引き立てるだけである。

水の流れなのか、時の流れなのか、「鹿おどし」は我々に流れるものを感じさせる。それをせき止め、刻むことによって、この仕掛けはかえって流れてやまないものの存在を強調しているといえる。

私はこの「鹿おどし」を、ニューヨークの大きな銀行の待合室で見たことがある。日本の古い文化がいろいろと紹介される中で、あの素朴な竹の響きが西洋人の心をひきつけたのかもしれない。だが、ニューヨークの銀行では人々はあまりに忙しすぎて、一つの音と次の音との長い間隔を聴くゆとりはなさそうであった。それよりも窓の外に噴き上げる華やかな噴水のほうが、ここでは水の芸術として明らかに人々の気持ちをくつろがせていた。

対照的な表現

流れる水と、噴き上げる水[3]　対句的表現1

◎第二段（空間に静止する水）

そういえばヨーロッパでもアメリカでも、町の広場にはいたるところにみごとな噴水があった。ちょっと名のある庭園に行けば、噴水はさまざまな[趣向]を凝らして風景の中心になっている。有名なローマ郊外のエステ家の別荘など、何百という噴水の群れが庭をぎっ

鹿おどし　落柿舎保存会協力（アマナイメージズ提供）

1 **鹿おどし**　庭園装置の一つ。本来は、その音で田畑を荒らす鹿や猪などを追い払うための仕掛け。「添水（そうず）・しかおどし」ともいう。

2 **筧**　水を引いてくるために竹や木で創った樋（とい）。

問 「それ」とは何を指すか。
流れるもの（46・9）

物語

伊勢物語

芥川（あくたがわ）

CD 24

大意 ある男が、長年思い続けてきた高貴な女を盗み出して逃げた。暗い夜、芥川の「何」と聞いたが男は答えなかった。逃げて行く途中、激しい雷雨にあい、男は女を蔵に隠して夜が明けるのを待ったが、蔵に住む鬼が女を食べてしまった。男は、自分も露のように消えてしまえばよかったのにと嘆き悲しんだ。

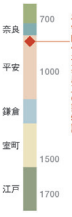
◎男と女の恋の逃避行の物語　格助（同格）

昔、男ありけり。女のえ[1]得まじかりける[2]を、年を経てよばひわたりける[3]を、からうじて盗み出でて、いと暗きに来けり。芥川[4]といふ川を率て行きければ、草の上に置きたりける露を、「かれは何ぞ。」となむ男に問ひける。行く先多く、夜も更けにければ、鬼ある所とも知らで、神さへいといみじう鳴り、雨もいたう降りければ、あばらなる蔵に、女をば奥に押し入れて、男、弓・胡[4]籙を負ひて戸口にをり、はや夜も明けなむと思ひつつゐたりけるに、鬼はや一口に食ひてけり。「あなや。」と言ひけれど、神鳴る騒ぎにえ聞かざりけり。やうやう夜も明けゆくに、見れば、率て来し女もなし。足ずりをして泣けどもかひなし。白玉か何ぞと人の問ひし時　露と答へて消えなましものを

（第六段）

『伊勢物語絵巻』（鎌倉時代のものを江戸時代後期に模写）　東京国立博物館蔵（Image:TNM Image Archives）

矢吹申彦画



1 **よばひわたりける**　求婚し続けていた。

2 **芥川**　所在不明。一説に現在の大阪府高槻（たかつき）市にある川。

3 **率て**　連れて行ったところ。

問 「率て」とは誰が誰を「率」たのか。
男が、長年求婚しながら手に入れることができそうにもなかった女を。

4 **胡籙**　矢を入れて背負う道具。

5 **露の縁語**　「女のえ得まじかりける」や「かれは何ぞ」という男に対する問いかけから、女は身分が高く、外に出たことのない人であることがわかる。

語句
えⅰ（打消）　率る　いたし　はや　かひなし

学習の手引き

一 ❖ 次の傍線部の助詞の意味・用法を調べてみよう。
①女のえ得まじかりけるを、（238・1）　格助詞・同格
②「かれは何ぞ。」となむ男に問ひける。（238・3）　係助詞・強意
③はや夜も明けなむと思ひつつ（239・2）　終助詞・願望
④人の問ひし時（239・8）　格助詞・主格

二 ❖ 女はどのような人として描かれているか、またそれはどのような表現からわかるか、まとめてみよう。

三 ❖ 「白玉か……」（239・8）の歌について、歌にこめられた男の心情を説明してみよう。

指導資料

朗読CD〈高等学校・精選・明解シリーズ共通〉

一部教材の朗読音声を収録した音声CDです。

高等学校国語総合
〈現代文編〉
（日本語の響き）
羅生門
鯰のうへ
死なない蛸
サフラン
崖
〈古典編〉
古典の響き
伊勢物語　芥川／筒井筒
漢詩　春暁／登鸛鵲楼／静夜思／江雪／
送元二使安西／江南春／涼州詞／
春望／臨洞庭／
香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁／
登高
高等学校現代文B
舞姫
高等学校古典B　古文編
方丈記　ゆく河の流れ
源氏物語　光源氏の誕生
更級日記　あこがれ
古今和歌集仮名序　やまと歌は
高等学校古典B　漢文編
漢詩　鹿柴／秋浦歌／宿建徳江／早発白帝城／
芙蓉楼送辛漸／楓橋夜泊／
送杜少府之任蜀州／春夜喜雨／
八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九／
遊山西村

精選国語総合
〈現代文編〉
日本語の響き（現代文・古典）
羅生門
旅上
サーカス
I was born
崖
〈古典編〉
伊勢物語　芥川／筒井筒
漢詩　春暁／静夜思／江雪／送元二使安西／
黄鶴楼送孟浩然之広陵／涼州詞／春望／
登岳陽楼／
香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁
精選現代文B
山月記
精選古典B
〔古文編〕
方丈記　ゆく河の流れ
枕草子　春はあけぼの
源氏物語　光源氏の誕生
更級日記　あこがれ
古今和歌集仮名序　やまと歌は
〔漢文編〕
漢詩　鹿柴／宿建徳江／春夜洛城聞笛／別董大／
涼州詞／送友人／月夜／
八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九／
遊山西村

明解国語総合
〈現代文編〉
雪ウサギ
バスに乗って
セメント樽の中の手紙
羅生門
旅上
シリウス
シジミ
〈古典編〉
古典の響き
伊勢物語　芥川／筒井筒
漢詩　静夜思／勧酒／江南春／涼州詞／月夜／
香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁
明解現代文B
山月記

テスト問題エディタ

テスト問題作成のための新しいパソコン用ソフトです。問題番号や傍線、解答欄を手軽に付けることができます。また、返り点や左右の振り仮名、送り仮名を編集できる漢文エディタ機能も搭載します。
通常のエディタとしての機能のほかに、以下のような機能を搭載しています。

- 漢文エディタ機能（左右の振り仮名、送り仮名、返り点、句読点、上下の括弧の操作）
- 問題用の傍線設定と自動連番機能。
- 解答欄作成。

『指導資料PDFファイル版』（別売）

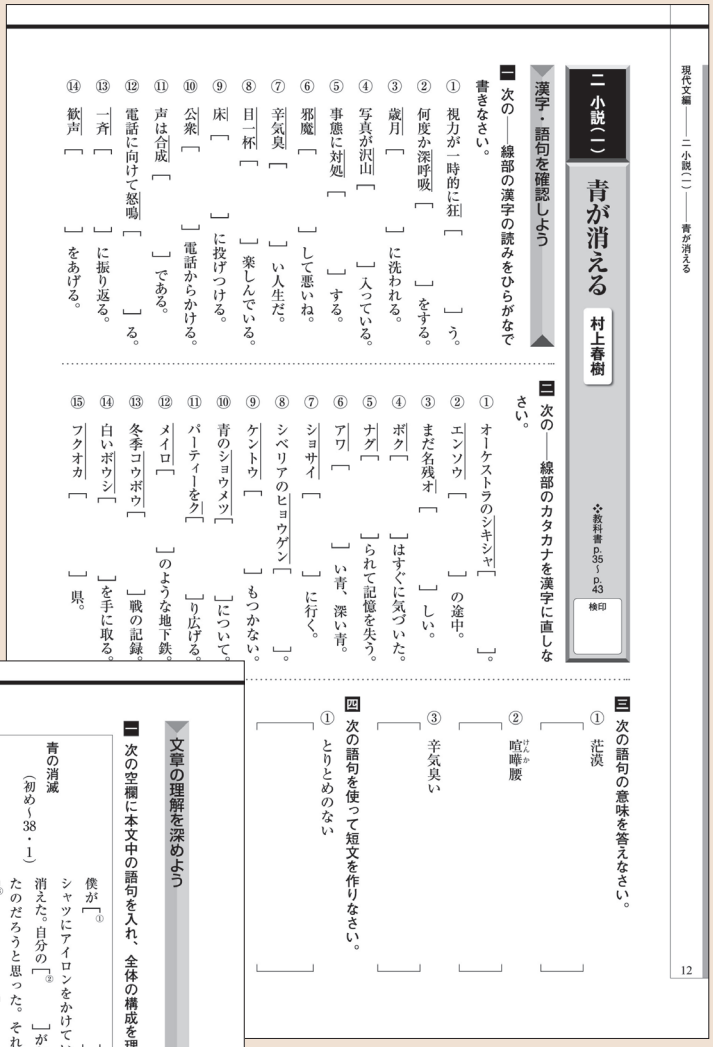
分冊の指導資料の内容をPDFデータで収録します。

生徒用教材のご案内

『学習課題ノート』

B5判　別冊解答・解説付き

教科書準拠のワークブックです。別冊解答には、自習にも使える詳しい解説が付きます。「高等学校」「精選」「明解」それぞれの教科書の特徴に対応した構成になっています。



現代文編——二 小説(二)——青が消える

12

二 小説(二)

青が消える

村上春樹

❖教科書 p.35 ～ p.43

検印

漢字・語句を確認しよう

一 次の——線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

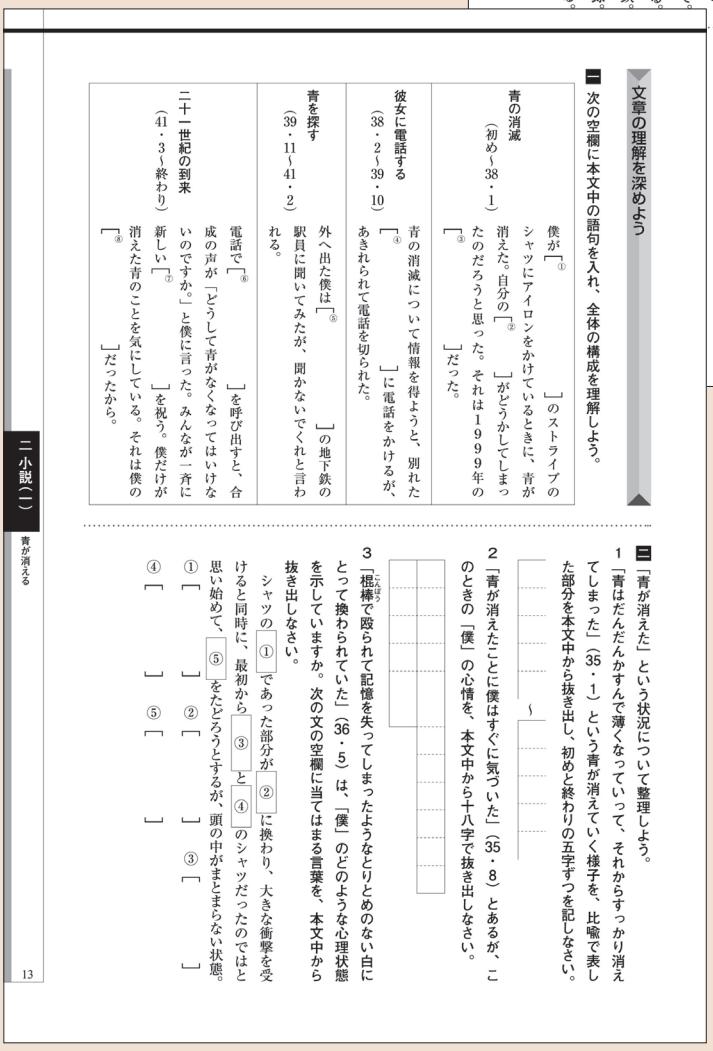
① 視力が一時的に狂［　　］う。
② 何度か深呼吸［　　］をする。
③ 歳月［　　］に洗われる。
④ 写真が沢山［　　］入っている。
⑤ 事態に対処［　　］する。
⑥ 邪魔［　　］して悪いね。
⑦ 辛気臭［　　］い人生だ。
⑧ 目一杯［　　］楽しんでいる。
⑨ 床［　　］に投げつける。
⑩ 公衆［　　］電話からかける。
⑪ 声は合成［　　］である。
⑫ 電話に向けて怒鳴［　　］る。
⑬ 一斉［　　］に振り返る。
⑭ 歓声［　　］をあげる。

二 次の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

① オーケストラのシキシャ［　　］の途中。
② エンソウ［　　］しい。
③ まだ名残オ［　　］はすぐに気づいた。
④ ボク［　　］られて記憶を失う。
⑤ ナダ［　　］い青、深い青。
⑥ アワ［　　］に行く。
⑦ ショサイ［　　］もつかない。
⑧ シベリアのヒョウゲン［　　］。
⑨ ケントウ［　　］について。
⑩ 青のショウメツ［　　］り広げる。
⑪ パーティーをク［　　］のような地下鉄。
⑫ メイロ［　　］戦の記録。
⑬ 冬季コウボウ［　　］を手に取る。
⑭ 白いボウシ［　　］県。
⑮ フクオカ［　　］

三 次の語句の意味を答えなさい。

① 茫漠
② 喧嘩腰
③ 辛気臭い
④ 次の語句を使って短文を作りなさい。
① とりとめのない



二 小説(二)　青が消える

13

文章の理解を深めよう

一 次の空欄に本文中の語句を入れ、全体の構成を理解しよう。

青の消滅（初め～38・1）	僕が［①　　］のストライプのシャツにアイロンをかけているときに、青が消えた。自分の［②　　］がどうかしてしまったのだろうと思った。それは1999年の［③　　］だった。
彼女に電話する（38・2～39・10）	青の消滅について情報を得ようと、別れた［④　　］に電話をかけるが、あきれられて電話を切られた。
青を探す（39・11～41・2）	外へ出た僕は［⑤　　］の地下鉄の駅員に聞いてみたが、聞かないでくれと言われる。
二十一世紀の到来（41・3～終わり）	電話で［⑥　　］を呼び出すと、合成の声が「どうして青がなくなってはいけないのですか。」と僕に言った。みんなが一斉に新しい［⑦　　］を祝う。僕だけが消えた青のことを気にしている。それは僕の［⑧　　］だったから。

二 「青が消えた」という状況について整理しよう。

1 「青はだんだんかすんで薄くなっていって、それからすっかり消えてしまった」（35・1）という青が消えていく様子を、比喩で表した部分を本文中から抜き出し、初めと終わりの五字ずつを記しなさい。

［　　］～［　　］

2 「青が消えたことに僕はすぐに気づいた」（35・8）とあるが、このときの「僕」の心情を、本文中から十八字で抜き出しなさい。

［　　］

3 「棍棒で殴られて記憶を失ってしまったようなとりとめのない白にとって換わられていた」（36・5）は、「僕」のどのような心理状態を示していますか。次の文の空欄に当てはまる言葉を、本文中から抜き出しなさい。

シャツの［①　　］であった部分が［②　　］に換わり、大きな衝撃を受けると同時に、最初から［③　　］と［④　　］のシャツだったのではと思い始めて、［⑤　　］をたどろうとするが、頭の中がまとまらない状態。

①［　　］　②［　　］　③［　　］
④［　　］　⑤［　　］

生徒用教材

★三省堂国語教科書ホームページ

「ことばと学びの宇宙」

http://tb.sanseido.co.jp/kokugo/kokugo/index.html

「教科書編集の趣旨」「評価資料」「年間シラバス案」は、こちらからダウンロードできます。

現代文・古典指導資料・教材一覧

指導書（内容は変更になる場合があります）

＝データまたは音声でのご提供です。　＝冊子でのご提供です。

		高等学校 現代文Ｂ	精選 現代文Ｂ	明解 現代文Ｂ	高等学校 古典Ｂ	精選 古典Ｂ
セットで同梱	指導資料	冊	冊	冊	冊	冊
	評価問題	データ	データ	データ	データ	データ
	実力問題	データ	データ	—	データ	データ
	補充教材	データ	データ	データ	データ	データ
	基本テスト	データ	データ	データ	データ	データ
	発問例集	データ	データ	データ	データ	データ
	ワークシート（構成・内容理解、語句学習）	データ	データ	—	—	—
	ワークシート（学びの道しるべ、語句・漢字、本文語句、本文漢字、構成・内容理解、表現活動）	—	—	データ	—	—
	ワークシート（構成・内容理解、語句・漢字学習、古文品詞分解、漢文書き下し文、古典口語訳）	—	—	—	データ	データ
	教科書原文	データ	データ	データ	データ	データ
	学習課題ノート	データ	データ	データ	データ	データ
	朗読CD	データ	データ	データ	データ	データ
	テスト問題作成エディタ	データ	データ	データ	データ	データ
	教師用教科書	冊	冊	冊	冊	冊
	本体価格	￥26,000	￥26,000	￥24,000	古文￥18,000 漢文￥12,000	￥29,000

※『高等学校古典B』は「古文編」「漢文編」で別売になります。
※「発問例集」の内容は「指導資料」にも含まれています。

指導書別売品

	高等学校 現代文Ｂ	精選 現代文Ｂ	明解 現代文Ｂ	高等学校 古典Ｂ	精選 古典Ｂ
教師用教科書	冊	冊	冊	冊	冊
本体価格	￥5,000	￥5,000	￥5,000	古文￥3,000 漢文￥3,000	￥5,000

※指導書セットの「教師用教科書」と内容は同じです。

	高等学校 現代文Ｂ	精選 現代文Ｂ	明解 現代文Ｂ	高等学校 古典Ｂ	精選 古典Ｂ
指導資料PDF版	データ	データ	データ	データ	データ
本体価格	￥5,000	￥5,000	￥5,000	古文￥3,000 漢文￥3,000	￥5,000

※指導書セットの「指導資料」の紙面をPDFファイルにしたものです。

生徒用教材（採用品）

	高等学校 現代文Ｂ	精選 現代文Ｂ	明解 現代文Ｂ	高等学校 古典Ｂ	精選 古典Ｂ
学習課題ノート	冊	冊	冊	冊	冊
本体価格	￥600	￥600	￥600	古文￥600 漢文￥600	￥800